

これが仙台!!

杜の都 人・街・元気紹介 Vol.5

仙台初売り速報

コロナ禍を乗り越えて

◆今年も新聞折込広告が大活躍◆

仙台初売りは、藩政時代から続く伝統行事であり、広く市民から支持され、また各流通企業にとってもお客様との日頃のご愛顧に感謝し、一年の商売繁盛を願う地域伝統商業文化です。新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、地域の伝統行事である初売りを安全そして安心に実施するため、大型店専門店、商店街、郊外大型店舗では、様々な感染症対策を講じて開催することになりました。福袋の事前予約や、WEB申し込み、抽選、年末からの先行販売など、新しい手法もみられましたが、地域の伝統行事を絶やすことなく、安心してお買い物ができるのではないのでしょうか。今年もまた、市内中心部大型店、商店街、そして郊外店、ロードサイド店などの初売り風景を紹介します。



仙台駅 (東西自由通路)



仙台駅前 (東口)

新春初売



仙台駅前 (西口)



福

ソーシャルディスタンスでも

初売りは大盛況!!





仙台初売り

ウイズコロナ定着熱気

前年上回る列 福袋完売 イベント満喫

新型コロナウイルスで3年目の仙台初売りは「ウイズコロナ」が定着し、市中心部は前年を上回る入出でにぎわった。初売りの勢いが物価高や増税による消費の冷え込みを振り払ってくれるよう、各店は願った。
(1・15面に関連記事)



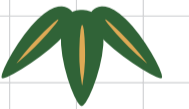
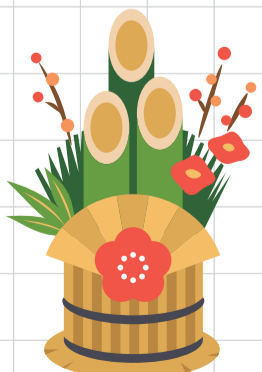
「前年よりかなり入出が戻り、福袋や買い物袋を手にした人が目立った」。仙台商工会議所の
は市中心部を視察後に語った。会長兼社長を務める藤崎は本館(青葉区)に昨年3
エスバル仙台(同区)も昨年の約3000人が列を作り、ホテルメトロポリタン仙台のロイヤルスイートルームのペア宿泊券が付いた26万円相当の福袋(10万円)などが即完売。
「予想以上の入出。伝統の仙台初売りが戻った。今年はインバウンド(訪日客)需要にも期待したい」と喜んだ。
仙台三越(同区)は混雑緩和策で、得意客を来店15分前に専用ゲートから入店させる優遇措置を設け、約250人が利用した。
は初売りに対する客の期待や熱気を感じたという(千支の)ウサギががんだ状態からジャンプできる年にした」と張り切った。

売り場「幸先いい」飛躍期待

「おまち商店街振興組理事長」は「人が集まる年越しイベントがテレビで放映され、外出マインドが喚起された」との分析を披露した。
各商店街による繰開きなどの催しは3年連続で縮小。
は「現状ではやむを得ない」とした上で、ウイズコロナの定着による入出増加を念頭に「(商店街として)にぎわいづくりの在り方を考えなければならぬ」と述べた。

「初売りは年々、福袋の購入だけでなくイベントなども含めて楽しむものに移行している。来客数はコロナ禍以前の水準に戻ってきており、地元企業として伝統文化に貢献できればうれしい」と話した。
市中心商店街の代表者らで構成する「仙台初売りをよりよくなる検討会」の
イービーンズ(同区)は3000円以上の買い物で参加できる現金つかみ取り、東北出身のアイドルグループ「いぎなり東北産」らが出演するライブコンサートなどイベント開催に力を入れる。

▲河北新報朝刊 2023年(令和5年)1月3日(火曜日)付



河北折込センター

TEL022-390-7322 FAX022-390-7822

〒984-0002 仙台市若林区卸町東3-4-1 河北折込センター

